

# 遙かなる時空の中で シルクロード

篠崎輝夫画伯との旅の思い出

今年は戦後70周年。戦後生まれの私は正直あまり深く考えたことがありませんでした。昨年、画廊ジュライで個展をすることになりシルクロードの旅をご一緒させていただいた篠崎輝夫先生の画集を見て、元千葉県立美術館館長米田耕司さんが書かれていた文章にありました。その文章を読んでいてシルクロードの旅行中、先生が話してくれた宮崎航空隊の話を読みだしました。米田さんのその文章を抜粋、引用させていただきます。

「宮崎航空隊に所属していた昭和20年8月はじめのことを篠崎輝夫は決して忘れることができません。広島原爆投下の直前「終戦の10日前のことです。私は山に掘った酒保へ物資を取りに行く要員の一人としてトラックに乗って山に向かいました。トラックが出た直後に米軍の爆撃機が航空隊を襲ったのです。爆撃機が去った後、航空隊に取って返すとそこはさながら地獄絵図の世界でした。出発が3分遅れていたら私も生きていなかったでしょう。その時も生きて帰れるようなことがあったら、絵を描きたいと思ったんです。」と述懐しています。」

1945年8月15日終戦。篠崎先生が言う、終戦10日前ということは8月6日になるのでしょうか。8月6日と言えば広島原爆投下の日になります。平山郁夫画集の年譜によると平山郁夫は8月6日に広島市陸軍兵器補給廠で原子爆弾被爆をしています。

二人の画家は広島原爆の日に「九死に一生を得る」という同じ戦争体験をしていたのではないかと考えられます。

今年1月にはじめて宮崎航空隊、知覧航空隊のあった場所に行って来ました。神風特攻隊の文字があらこちらで見られました。1929年生まれの方は16歳だったのでしょうか。そして広島にも行くことができました。この旅で自分の戦争に対する無知さに言葉がありませんでした。先生は何故わたくしにも話してくれたのだろうか……？

先生が亡くなる3年程前のシルクロードの旅のことでした。



## 黒田邦裕 略歴

- 1950年 北海道森町に生まれる
- 1972年 春陽会初出品
- 1973年 日本大学芸術学部卒業
- 1975年 春陽会本部研究会研究生(～'85)
- 1976年 千葉'76展出品(以後'79展まで、千葉県立美術館)
- 1978年 千葉県美術協会会員推挙
- 1979年 第23回シェル美術賞展出品
- 1980年 第3回現代の裸婦展出品(同第6回出品、日動画廊)
- 1984年 春陽会研究賞受賞
- 1986年 春陽会準会員推挙 全道展佳作賞受賞('89奨励賞)
- 1988年 春陽会会員推挙 千葉産経展知事賞('86奨励賞、'89佳作賞)
- 1989年 キャラター白百合にて個展(日本橋) 第1回ジャパン大賞展出品('92佳作賞)
- 1991年 第2回浅井忠記念賞展出品 札幌時計台ギャラリーにて個展 1992年
- 1993年 第3回浅井忠記念賞展出品
- 1995年 水塚展OHARA(優秀賞)
- 2005年 三草野太郎、節子賞展出品(賞候補)
- 2002年 第5回人間讃歌大賞展、埼玉県医師会賞
- 2004年 第5回北の大地ビエンナーレ大賞展、中札内美術村賞
- 2007年 第6回北の大地ビエンナーレ展北海道新聞社賞

現在、春陽会会員、日本美術家会員、千葉県美術協会理事